

## 「秋田県立秋田北鷹高校 IRC 参加記録」

秋田県立秋田北鷹高等学校

教諭 東海林 拓郎

秋田県立秋田北鷹高校は、平成 25 年度よりスーパーサイエンスハイスクールの指定校として、主に環境や宇宙開発を研究テーマとして取り組んできた。そんな中、ロケット甲子園 2015 において本校ロケットチーム「ブルースカイ」が優勝し、イギリスのファンボロー空港で開催されたモデルロケット国際大会（IRC）へ出場する機会を得た。

大会は平成 28 年 7 月 14～15 日に開催され、初日にプレゼンテーション、2 日目に打ち上げ競技が行われ、アメリカ、フランス、イギリスの各国優勝チームと世界一を競った。また、この合間を縫って、出場チーム同士の交流の機会も設けられた。

出発前には、生徒を中心としてプレゼンテーションの準備に追われた。審査基準を満たすべく内容を吟味し、英語に翻訳し、発音及びプレゼンテーション練習に明け暮れた。

生徒にとっては初の海外での生活であり、IRC の参加とは別の緊張感をもっているようだったが、会場入りしてからは日本航空宇宙工業会の宇治様、和歌山大学の秋山教授のサポートを得て、プレゼンテーションや打ち上げの準備をスムーズに行うことができた。

プレゼンテーションでは、引率教員は入室不可であったが、準備していた発表はうまく行うことができたようだった。ただ、質疑応答の場面で、通訳がついていたものの、質問

に対する回答が緊張感や高揚からか、十分に的を射ることができずに心残りの経験となった。打ち上げでは、運搬中にフィンが外れてしまうトラブルもあったが、何とか打ち上げることができた。2 年前の先輩は卵が割れてしまい記録にならなかったが、ブルースカイの打ち上げでは、卵は無事に帰還し記録を残すことができた。

英語でのコミュニケーションに自信のない生徒が最も恐れていた出場チーム同士の交流会では、当初は全くと言っていいほど喋ることができなかったが、大会関係者等に促され、徐々に打ち解けていった。最終的にはポケットモンスターの話題で盛り上がるなど、コミュニケーションの難しさ、楽しさを体験するいい機会となった。また、他国の出場チームの自らのキャリアへの意識の高さには大いに刺激を受けた様子だった。

最終的な順位は出場 4 チーム中 4 位であり、本校のロケット研究に関する進歩は感じつつも、悔しい思いをする大会であった。生徒にとっては、4 位という結果に加え、各国の出場チームとの交流を通じて、各自の力不足を感じたようだった。IRC 参戦の経験が今後の成長の糧になりそうな様子を見て、来年も彼らの後輩を出場させてあげたいという思いが強くなる大会であった。